

令和3年度における運用状況等

(令和3年4月～令和4年3月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っています。この度、令和3年度における運用状況が確定しましたので本資料をもって公表いたします。

なお、令和4年6月に加入者の皆様へ送付しました「令和3年度 運用（付利）結果のお知らせ」（付利通知）は、令和3年度の被保険者ポートフォリオの運用状況などをもとにして、加入者の皆様ごとに運用収入の配分額を計算しておりますので、ご覧の際にはぜひ本資料も併せてご利用下さい。

当基金が行っています年金資産の運用においては、確定拠出型の年金制度であることから、原則時価で評価しなければならないため、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績が変動しマイナスになる年がありますが、長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思っておりますので、皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成30年3月27日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 運用の透明性の確保

年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）における運用環境について	1
2. ベンチマーク・インデックスの推移	2
3. 令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）のポートフォリオ別の運用状況	3
（参考）	
被保険者ポートフォリオ 運用実績等の推移	6
用語の説明	8

1. 令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）における運用環境について

○国内債券・外国債券

年度前半は、米国において市場予測を下回る経済指標等を背景に量的金融緩和の早期縮小懸念が後退したこと等により債券利回りは低下（債券価格は上昇）しました。

8月以降は、海外におけるインフレに対する警戒感や米国の量的金融緩和の早期縮小懸念等から債券利回りは上昇（債券価格は下落）した後、11月には新型コロナウイルスの新たな変異株（オミクロン型）に対する警戒感から低下（債券価格は上昇）する場面も見られました。

その後は、12月に米国のFOMC（連邦公開市場委員会）において量的金融緩和の縮小ペースの加速が決定され、4年3月には利上げが開始されたこと等から、国内外で債券利回りは大きく上昇（債券価格は下落）し、国内10年国債利回りは0.210%、米国10年国債利回りは2.341%となりました。

○国内株式・外国株式

年度前半、外国株式においては、新型コロナワクチン接種の進展等を受けた経済活動正常化への期待等を背景に上昇する一方、国内株式においては、新型コロナウイルス感染拡大により東京都等に緊急事態宣言が発令されたこと等から伸び悩みました。

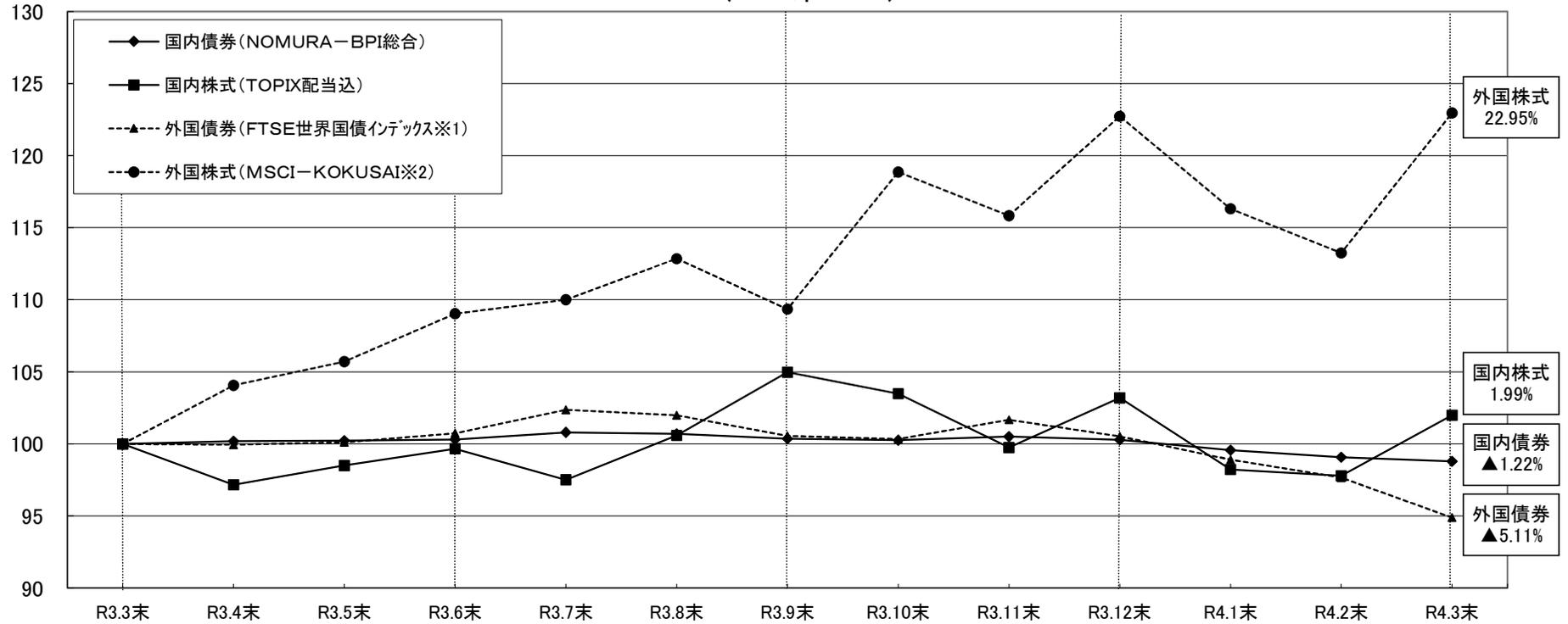
11月から12月にかけては、新型コロナウイルス（オミクロン型）への警戒感やその後の重症化リスクは低いとの分析報道等により一旦下落後、上昇しました。

年明け以降は、米欧における早期利上げ等への警戒感やウクライナ情勢の深刻化等を背景に、国内外で大幅に下落しましたが、年度末にかけてはウクライナ情勢への懸念が和らいだこと等により上昇し、日経平均株価は27,821.43円、NYダウは34,678.35ドルとなりました。

○為替

米国の長期金利上昇による日米金利差拡大やリスク選好の動き等を背景に対ドルで緩やかに円安が進行しました。3月には米国の長期金利上昇や輸入物価高騰による経常収支悪化懸念等から大幅に円安が進み、対ドルは121円38銭、対ユーロは135円05銭となりました。

2. ベンチマーク・インデックスの推移 (R3.3末=100)



(参考) 市場インデックス

区分	令和3年3月末	令和3年6月末	令和3年9月末	令和3年12月末	令和4年3月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	0.090 %	0.055 %	0.065 %	0.070 %	0.210 %
(NOMURA-BPI総合)	385.724 ポイント	386.903 ポイント	387.116 ポイント	386.841 ポイント	381.037 ポイント
国内株式 (日経225)	29,178.80 円	28,791.53 円	29,452.66 円	28,791.71 円	27,821.43 円
(TOPIX配当込)	3,080.87 ポイント	3,070.81 ポイント	3,234.08 ポイント	3,179.28 ポイント	3,142.06 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	1.742 %	1.469 %	1.488 %	1.512 %	2.341 %
(独10年国債利回り)	-0.292 %	-0.207 %	-0.199 %	-0.177 %	0.548 %
(FTSE世界国債インデックス※1)	413.626 ポイント	416.696 ポイント	415.950 ポイント	415.796 ポイント	392.472 ポイント
外国株式 (NYダウ)	32,981.55 ドル	34,502.51 ドル	33,843.92 ドル	36,338.30 ドル	34,678.35 ドル
(独DAX指数)	15,008.34 ポイント	15,531.04 ポイント	15,260.69 ポイント	15,884.86 ポイント	14,414.75 ポイント
(MSCI-KOKUSAI※2)	4,484.841 ポイント	4,889.768 ポイント	4,903.718 ポイント	5,504.126 ポイント	5,514.322 ポイント
為替レート (対ドル)	110.50 円	110.99 円	111.58 円	115.16 円	121.38 円
(対ユーロ)	129.87 円	131.62 円	129.31 円	130.95 円	135.05 円

※1 FTSE世界国債インデックス (除く日本、為替ヘッジあり)

※2 MSCI-KOKUSAI (源泉税控除前、配当再投資、為替ヘッジなし)

3. 令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)のポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)の被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、令和3年度末時価総額は2,650億47百万円となり、令和3年度の総合収益は62億76百万円となりました。また、修正総合利回りは2.39%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	令和2年度末 時価総額	令和3年度末 時価総額	時価総額構成割合	令和3年度 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	170,435	182,685	68.9	-1,215	-0.68
自家運用	71,535	72,393	27.3	306	0.42
外部運用	98,899	110,292	41.6	-1,520	-1.44
国内株式	36,265	32,524	12.3	603	1.78
外国債券	12,864	13,171	5.0	-674	-5.25
外国株式	39,995	35,001	13.2	7,616	21.61
短期資産	-2,554	1,666	0.6	-54	—
合 計	257,006	265,047	100.0	6,276	2.39

- (注)
1. 政策アセットミクスは、国内債券71% (±10%)、国内株式12% (±4%)、外国債券5% (±2%)、外国株式12% (±4%) としています (カッコ内は乖離許容幅)。
 2. 国内債券のうち自家運用 (満期保有目的) については、償却原価法 (定額法) を適用しています。
 3. 国内債券のうち外部運用については、金利上昇リスクに対応するために保有する短期資産 (令和2年度末時価総額47,494百万円、令和3年度末時価総額53,664百万円) を含みます。
 4. 外国債券のベンチマーク・インデックスには令和3年10月から中国国債が段階的に組み入れられますが、当基金においては当面、中国国債は購入しないこととしています。
 5. 令和2年度末時価総額は、令和2年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の▲2,554百万円は、決算整理前の額791百万円から被保険者危険準備金ポートフォリオへの繰入額3,345百万円を減算した額です。
令和3年度末時価総額の短期資産1,666百万円は、決算整理前の額です。
 6. 令和3年度末時価総額 (合計) は、令和2年度末時価総額 (合計) 257,006百万円に、第4四半期までの追加投資額等1,765百万円及び総合収益の6,276百万円を加算した額265,047百万円となりました。
なお、令和3年度第1四半期末時点で外国株式が乖離許容幅を超えて上昇したことから、第2四半期において外国株式、国内株式を売却 (利益確定) し国内債券を購入するリバランスを行いました。その結果、資産別に見たとき、令和2年度末と令和3年度末の時価総額の差と令和3年度の総合収益に乖離 (逆転) が生じています。
 7. 短期資産の総合収益のマイナスは、運用受託機関に対する信託報酬等を支出したことによるものです。
 8. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。(以下同じ。)

(参考) 令和3年度第4四半期(令和4年1月～3月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資 産	令和3年12月末 時価総額	令和3年度末 時価総額	時価総額構成割合	第4四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	183,603	182,685	68.9	-1,725	-0.92
自家運用	71,743	72,393	27.3	72	0.10
外部運用	111,860	110,292	41.6	-1,796	-1.60
国内株式	32,314	32,524	12.3	-330	-1.01
外国債券	13,255	13,171	5.0	-745	-5.69
外国株式	34,943	35,001	13.2	58	0.16
短期資産	6,174	1,666	0.6	-54	—
合 計	270,289	265,047	100.0	-2,796	-1.04

(注) 令和3年度末時価総額(合計)は、令和3年12月末時価総額(合計)270,289百万円に、第4四半期の受給権者ポートフォリオへの繰入額等2,446百万円及び総合収益の▲2,796百万円を減算した額265,047百万円となりました。

② 受給権者ポートフォリオ

令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)の受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

なお、債務の評価額である受給権者経理における給付原準備金の額は、毎年度末の額について、年金数理人の有資格者である年金計理人が、関係規定に基づき適正に算定されていることを確認しており、令和3年度末においては101,802百万円(令和2年度末においては96,329百万円)となっています。

(単位:百万円)

資 産	令和2年度末 時価総額	令和3年度末 時価総額
国内債券	81,877	91,045
短期資産	15,756	12,322
合 計	97,634	103,367

- (注) 1. 令和2年度末時価総額は、令和2年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の15,756百万円は、決算整理前の額15,765百万円から受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入額8百万円を減算した額です。
令和3年度末時価総額は、決算整理前の額となっています。
2. 令和3年度末時価総額の短期資産のうち10,504百万円は、マイナス利回りの国内債券購入を回避するため、追投待機資産として現預金等により取り置いているものです。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)の危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	令和2年度末 時価総額	令和3年度末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	9,345	9,347
	調整準備金	短期資産	3,773	3,580
	合 計		13,118	12,927
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	2,971	3,352

- (注) 令和2年度末時価総額は、令和2年度決算整理後の額となっています。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計13,118百万円は、決算整理前の合計額9,773百万円に被保険者ポートフォリオからの受入額3,345百万円を加算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の2,971百万円は、決算整理前の額2,963百万円に受給権者ポートフォリオからの受入額8百万円を加算した額です。
令和3年度末時価総額は、決算整理前の額となっています。

(参考) 被保険者ポートフォリオ 運用実績等の推移

(1) 総合収益の推移

(単位:百万円)

年度	総合収益 (単年度)
平成14年度	-563
15	1,852
16	1,690
17	6,603
18	2,923
19	-5,047
20	-10,765
21	10,849
22	-82
23	3,566
24	15,631
25	14,213
26	17,397
27	-1,479
28	6,992
29	10,556
30	3,953
令和元年度	-4,958
2	25,287
3	6,276

(注)「平成14年度」の計数は、平成14年1月1日から平成15年3月31日までのものです。(以下同じ。)

【参考】

令和3年度の各四半期の総合収益及び修正総合利回りの推移

(単位:百万円)

区分	総合収益	修正総合利回り
第1四半期	4,111	1.58%
第2四半期	1,861	0.70%
第3四半期	3,100	1.18%
第4四半期	-2,796	-1.04%
通期	6,276	2.39%

(2) 運用利回りの推移

年度	修正総合利回り (単年度)
平成14年度	-4.65%
15	5.99%
16	3.40%
17	9.80%
18	3.27%
19	-4.73%
20	-9.25%
21	9.14%
22	-0.06%
23	2.36%
24	9.62%
25	7.75%
26	8.78%
27	-0.69%
28	3.26%
29	4.75%
30	1.71%
令和元年度	-2.08%
2	10.82%
3	2.39%

(注)平成14年度からの平均利回りは2.94%です。

【参考】

各5年間の平均運用利回り

区分	H14~H18	H15~H19	H16~H20	H17~H21	H18~H22	H19~H23	H20~H24	H21~H25
平均利回り	3.45%	3.43%	0.27%	1.36%	-0.53%	-0.70%	2.12%	5.69%
区分	H22~H26	H23~H27	H24~H28	H25~H29	H26~H30	H27~R1	H28~R2	H29~R3
平均利回り	5.62%	5.49%	5.67%	4.72%	3.51%	1.36%	3.61%	3.43%

(3) 資産別運用利回りの推移

年度	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式
平成14年度	2.58%	-28.75%	16.31%	-31.72%
15	-0.08%	48.62%	-1.70%	21.12%
16	1.76%	3.07%	11.42%	14.90%
17	-0.14%	49.88%	7.83%	27.68%
18	1.75%	0.94%	10.62%	17.36%
19	2.42%	-29.59%	0.80%	-18.59%
20	1.53%	-33.61%	-7.44%	-44.90%
21	1.66%	28.45%	0.57%	43.69%
22	1.58%	-8.24%	-5.78%	2.78%
23	2.12%	2.47%	5.07%	2.87%
24	2.57%	24.62%	16.73%	28.06%
25	1.07%	19.84%	14.31%	31.91%
26	2.16%	30.30%	11.98%	23.15%
27	3.41%	-10.65%	-2.75%	-8.46%
28	-0.25%	14.81%	-5.08%	14.41%
29	0.84%	18.99%	4.21%	10.95%
30	1.39%	-4.39%	3.29%	9.81%
令和元年度	0.24%	-9.19%	7.25%	-12.27%
2	-0.16%	41.41%	-2.10%	59.35%
3	-0.68%	1.78%	-5.25%	21.61%

(4) 年度末時価総額の推移

(単位:百万円)

年度	国内債券		国内株式		外国債券		外国株式		短期資産		合計
	時価総額	構成割合	時価総額	構成割合	時価総額	構成割合	時価総額	構成割合	時価総額	構成割合	
平成14年度	15,485	67.5%	3,169	13.8%	1,225	5.3%	1,639	7.1%	1,434	6.3%	22,948
15	33,240	78.5%	4,166	9.8%	1,935	4.6%	1,555	3.7%	1,438	3.4%	42,335
16	43,270	71.6%	9,081	15.0%	2,192	3.6%	5,765	9.5%	121	0.2%	60,430
17	57,192	69.2%	14,581	17.6%	2,510	3.0%	8,219	9.9%	117	0.1%	82,619
18	72,170	71.9%	15,014	15.0%	3,694	3.7%	9,310	9.3%	157	0.2%	100,345
19	80,207	73.6%	15,108	13.9%	3,229	3.0%	9,200	8.4%	1,192	1.1%	108,937
20	81,805	72.9%	13,891	12.4%	5,568	5.0%	10,778	9.6%	165	0.1%	112,207
21	92,656	68.4%	18,109	13.4%	6,762	5.0%	17,705	13.1%	311	0.2%	135,543
22	101,560	69.5%	18,029	12.3%	7,579	5.2%	18,595	12.7%	323	0.2%	146,087
23	107,216	67.6%	21,538	13.6%	8,103	5.1%	21,576	13.6%	87	0.1%	158,520
24	115,338	64.0%	27,698	15.4%	8,708	4.8%	26,893	14.9%	1,623	0.9%	180,260
25	135,056	68.4%	24,101	12.2%	10,007	5.1%	25,902	13.1%	2,388	1.2%	197,454
26	139,440	64.7%	31,070	14.4%	10,841	5.0%	30,904	14.3%	3,168	1.5%	215,423
27	146,212	68.8%	27,146	12.8%	10,876	5.1%	27,124	12.8%	1,053	0.5%	212,411
28	146,783	66.5%	31,216	14.2%	10,787	4.9%	30,781	14.0%	1,017	0.5%	220,584
29	165,551	71.6%	27,702	12.0%	11,672	5.0%	25,895	11.2%	471	0.2%	231,291
30	165,413	70.3%	27,972	11.9%	12,168	5.2%	28,639	12.2%	943	0.4%	235,135
令和元年度	166,845	71.9%	26,471	11.4%	13,085	5.6%	25,071	10.8%	588	0.3%	232,060
2	170,435	65.5%	36,265	13.9%	12,864	4.9%	39,995	15.4%	791	0.3%	260,351
3	182,685	68.9%	32,524	12.3%	13,171	5.0%	35,001	13.2%	1,666	0.6%	265,047

(注)各年度の短期資産及び合計の時価総額は、比較対照を可能とするため、決算整理前の額としています。

【参考】

(5) 運用受託機関(令和3年度末現在)

運用形態別時価総額(令和3年度末)

(単位:百万円)

資産	運用受託機関
国内債券(自家運用を除く。)	みずほ信託銀行株式会社
国内株式	
外国債券	
外国株式	
短期資産(自家運用を除く。)	

資産	自家運用	外部運用	計
国内債券	72,393	110,292	182,685
国内株式	-	32,524	32,524
外国債券	-	13,171	13,171
外国株式	-	35,001	35,001
短期資産	1,645	21	1,666
合計	(27.9%) 74,038	(72.1%) 191,009	(100.0%) 265,047

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債(A格相当以上)から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証1部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。構成銘柄については令和4年4月の東証市場再編により、令和7年1月までに旧東証1部上場全銘柄から東証上場銘柄のうち流通時価総額 100 億円以上の銘柄へと段階的に移行することとされている。

* FTSE世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジあり)

FTSE Fixed Income LLCが作成している外国債券市場の指標。主要各国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、為替ヘッジなし)

MSCI Inc.が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。